

第3学年国語科学習指導案

日時 平成17年9月13日(火)5校時
児童 男子7名 女子7名 計14名
指導者 佐藤裕子

1 単元名 二 大事なことをたしかめよう(光村三下)

2 教材名 すがたをかえる大豆(国分 牧衛)
食べ物がかせになろう

3 単元について

(1) 指導事項について

本単元の主たる指導事項は、「目的に応じて中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと」(読イ)である。この力を育てるためには、「文章の中心となる語や文をとらえること」「段落ごとの内容をまとめたりつなげたり比べたりしながら読むこと」「段落の働きや段落ごとの関係に気付くこと」などの力を育てる必要がある。本単元では、「接続語の働きに気付き、文章の中心となる語や文を比べ、段落相互の関係に気をつけながら正しく読む」ことを目標とする。

(2) 教材について

「すがたをかえる大豆」は、大豆やその加工品について書かれた説明的文章である。話題提示・事例・筆者の考えが書かれた「はじめ・中・終わり」の文章構成になっており、様々な大豆の食べ方が、人の手の加え方とともに解説されている。前教材「ありの行列」のような仮説・検証型の文章構成とは異なり、一貫して、大豆がどのような工夫で、どのような姿に変わっているのかが述べられている解説型の文章なので、中心となる語や文をとらえやすい。「大豆」は、なんらかの形で毎日口にする食べ物であり、私たちにとって身近な物である。しかし、見ただけでは大豆からできているとは思われないものが多い。児童は、それを知り、興味や驚きを感じるだろう。

本教材は、「食べるくふう」「いろいろな食品」などの表現から、大豆が様々な食品へと変化をとげていくことが分かる語や文に目を向け、比べながら読むことができる。また、「いちばん分かりやすいのは」「次に」「また」「さらに」「このほかに」などの接続する語句の働きによって、大豆が姿を変えていくことの論理の展開をとらえることができる。そして、大豆が様々な食品に姿を変えていく事例を読み進めることで、筆者の考えである「昔の人々の知恵」に共感することができる。

本単元では、「すがたをかえる大豆」で身の回りにあふれる大豆や大豆の加工食品に興味を持ったことから、その他の身近な食べ物について自分で調べ、教材の読みで学んだことを生かし、まとめる活動へと展開していく。

以上のことから、本教材は、大豆が様々な食品に姿を変えていく様子を、中心となる語や文を比べながら読むことで、書かれている内容の大事なことを確かめる学習に適した教材であると考えられる。

(3) 児童について

児童は、教材「ありの行列」で、自分たちの身近にいる「あり」の不思議やおもしろさに触れ、「なぜ~でしょうか」「はじめに」「次に」「このように」といった言葉や時間の経過が分かる言葉に気をつけ、文章の内容を正しく読み取る学習を行ってきた。また、内容がひとまとまりになっているものを段落とよぶことを学んだ。そして、「ものがあまりよく見えないありが、なぜ行列を作れるのか」という問いの答えを探すために大事な文を探しながら読み、段落ごとに書かれている内容をまとめてきた。「段落」のひとまとまりを意識させるために、文章の全体図を色分けで示したので、段落とはどういうものかを視覚からもとらえられたようである。

児童は、全員で読み進めると段落ごとの大体の内容は理解できる。しかし、大事な語や文、中心になる文を自分で見つける力は十分身に付いていない。また、段落ごとに書かれている内容を比べて段落相互の関係を自分で読み取ることも難しい。読書が好きな児童が多く、興味をもったことについて進んで調べる

児童も多いので、本教材を読んで感じた不思議、驚きを大切に、段落ごとの中心になる文や段落相互の關係に気付かせ、書く活動につなげていきたい。

(4) 指導にあたって

本単元の指導にあたって、次のことに留意しながら進めていきたい。

食べ物に関する本のブックトークを行い、不思議や驚きなどを発見しながら読む楽しさに気付くことができるようにする。そして、身の回りの食べ物に対する興味を持ち、「食べ物はかせ」になることを目的とし、学習意欲を高める。

「工夫」と「すがた」「手の加え方」を読み視点として表にまとめることにより、大豆がさまざまに姿を変えていくことをとらえることができるようにする。

教材文を読み進める際、段落を意識させながら、「中心となる語や文をとらえる読み」を行う。そして、「事例」が書かれている段階において、「中心となる語や文を段落ごとに比べる読み」を行い、段落相互の關係をとらえることができるようにする。また、「はじめ」「中」「終わり」の文章全体の組み立てをとらえ、それぞれの役割を理解することができるようにする。

学級全体での学び合いの前にペア学習を取り入れ、自分の考えを話したり友達の考えを聞いたりすることにより、自分の考えを確かめたり深めたりすることができるようにする。

自分が興味をもった身近な食べ物について本で調べ、分かったこと、大事なことなどをカードにまとめる。そのカードを基にして、事柄ごとに段落を分けて文章に表すことができるようにする。

書いた文章を読み合い、感想を交流することで友達の表現の良さに目を向け、今後の自分の表現に生かすことができるようにする。

4 単元の目標

【国語へ関心・意欲・態度】

大豆や身近な食べ物に興味をもち、その不思議や驚きを発見しながら、食べ物シリーズの本を読もうとする。

【書く能力】

調べた食べ物について、書こうとする事を中心を明確にししながら、段落と段落との続き方に注意して書くことができる。(書工)

【読む能力】

大豆が姿をかえることについて中心となる語や文に着目し、段落と段落のつながりを考えながら、文章を正しく読むことができる。(読イ)

【言語についての知識・理解・技能】

文章全体の組み立てを考え、段落の役割を意識しながら読んだり書いたりすることができる。(言オ(イ))

5 指導計画と評価規準(17時間)

次	時	学 習 内 容	評 価 規 準
一	1	・題名読みやブックトークにより、大豆や身の回りの食べ物に対する興味・関心をもつ。 ・全文を通読し、感想などを交流する。	【関】大豆や身の回りの食べ物に関する本に関心をもち、不思議や驚きを発見しようとしている。
	2	・「食べ物はかせ」になるための全体計画を立てる。 ・第一、第二段落を読み、読みの視点(すがた、工夫、手の加え方)をつかむ。	【関】身の回りの食べ物に関する文章を書くことに関心をもっている。 【読】中心となる語や文に着目し、話題と大豆の説明を読み取っている。
	3	・第三、第四段落の大豆の姿、工夫、手の加え方を読む。	【読】中心となる語や文に着目し、いり豆や煮豆、きなこに姿をかえる大豆の、おいしく食べる工夫や手の加え方を読み取っている。
	4	・第五、第六段落の大豆の姿、工夫、手の加え方を読む。	【読】中心となる語や文に着目し、とうふや納豆、みそやしょうゆに姿をかえる大豆の、おい

二			しく食べる工夫、手の加え方を読み取っている。
	5	・第七段落の大豆の姿、工夫、手の加え方を読む。	【読】中心となる語や文に着目し、えだ豆やもやしに姿をかえる大豆の、おいしく食べる工夫、手の加え方を読み取っている。
	6	・第三～第七段落の読みをもとに、5つの段落のつながりを考える。(本時)	【読】段落と段落を比べながら、大豆が姿をかえることを分かりやすく伝えるための筆者の述べ方について考えている。
	7	・第八・第九段落から筆者の考えを読み、文章全体の構成をとらえる。	【読】昔の人々の知恵のすばらしさについて、筆者の考えを読み取っている。 【言】つなぎの言葉の働きを考えている。
三	8	・「食べ物がかせになろう」を読み、調べたい食べ物や調べたいことを決める。	【関】姿をかえる身近な食べ物について本で調べようとしている。
	9	・「食べ物がかせ」の本作りの計画を立てる。	【関】身近な食べ物がすがたをかえる不思議や驚きを読み手に伝えようとしている。
	10	・本での調べ方を確認し、調べて分かったことなどをカードにまとめる。	【書】身近な食べ物について、すがたをかえることを伝えるための中心となる語や文をカードに書き、本作りに必要な事柄を収集している。
	11		
	12		
	13		
	14	・調べたことを整理し、段落を考えながら本にまとめる。	【書】伝えたいことが分かるように、段落と段落の続き方を工夫して文章を書いている。
15	16	【関】さまざまな食べ物のおいしく食べられる工夫について関心もち、友だちの作った本を読んでいる。	
17			・「食べ物がかせ」交流会をする。

6 本時の指導

(1) 指導の構想

本時の学習では、～段落には視点に沿った内容が書かれているだけでなく、書き手が意図した順序性があるということに気付かせたい。そのために、前時までの読みをもとにして、段落ごとに書かれている大豆の姿、工夫、手の加え方に着目して読み、段落の始めの言葉などを手がかりにしながら、その順序性に気付くことができるようにする。また、どの児童も読みを振り返ったり、意見を交流したりできるように、小グループでの意見交流場面を作る。

(2) 目標

段落ごとに書かれている事柄を比べながら読み、大豆が姿を変えることを分かりやすく伝える筆者の述べ方に気付くことができる。

(3) 展開

段階	学習活動	教師の支援と働きかけ	評価(方法)
つかむ 4分	1 前時の学習を想起する。	<ul style="list-style-type: none"> 段落も、～段落までと同じく、「くふう」「すがた」「手の加え方」を手がかりに読んだことを確認する。 ～段落の大豆の姿を提示することで、段落の内容を確認し、課題意識をしっかりとらせる。 	
	2 本時の学習課題を確認する。 国分さんの、せつめいのひみつをさぐる。		

ふかめる 36分	<p>3 学習場面を音読する。 段落～ 段落を読む。(指名読)</p> <p>4 段落を中心にして、他の段落と比べながら読む。 【一人学び】</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>【ペア学習】</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>【学び合い】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ~ 段落の事例をどのような順序で説明しているのか、考えながら音読させる。 ・ 前時までの読みの手がかり(「工夫」「すがた」「手の加え方」)を使い、段落と段落を比べながら筆者の説明の工夫を考えさせる。 ・ 説明の工夫を見つけられない児童には、「いちばん分かりやすいのは」の意味を考えさせる。 ・ 隣同士で考えを交流し、自分の考えと比べさせ、筆者の説明の工夫に対する自分の考えを明確にさせる。 ・ 段落ごとの「すがた」「工夫」「手の加え方」を比べ、それぞれが読み手にとって分かりやすい順序で説明されていることをとらえさせる。また、その他の考えについても、その子なりの着眼点を認めるようにする。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>段落ごとに書かれている事柄を比べながら読み、「すがた」「工夫」「手の加え方」が分かりやすい内容から説明されていることに気付くことができたか。 (ワークシート、挙手、発言)</p> </div>
	<p>5 段落を中心にして、他の段落と比べながら読む。 【ペア学習】</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>【学び合い】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読みの手がかりから、段落は、～ 段落と関連性はある、ほかのことを説明していることをとらえさせる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>段落ごとに書かれている事柄を比べながら読み、付け加える内容が最後に説明されていることに気付くことができたか。 (挙手・発言)</p> </div>
まとめる 5分	<p>6 本時の学習のまとめをする。</p> <p>7 次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 段落、段落を中心にして読んだことから、分かったことをまとめさせる。 ・ 段落を読むことを確認する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>分かりやすく伝えるための筆者の説明の工夫をまとめることができたか。 (ワークシート)</p> </div>

(4) 具体的評価規準

評価規準	十分満足できる児童の姿の例	努力を要する児童への手立て
工夫、すがた、手の加え方に着目して、段落と段落を比べながら読み、大豆が姿を変えることを分かりやすく伝える筆者の述べ方に気付いている。	段落相互の関係を考えながら読み、段落の始めの言葉の働きにも目を向けて、大豆が姿を変えることを分かりやすく伝えるための筆者の述べ方に気付いている。	段落と段落を比べながら読めない児童へは、段落の始めの言葉やすがたに目を向けさせ、段落ごとに書いてある事柄を比べさせる。